



Seaside LAB

CONCEPT

第三次産業が古くから発展し・現在も ICT などの研究・開発・スタートアップが盛んな街であり、アジアの玄関口として位置づけられている福岡市。その福岡市に 30 年前、未来を担う「実験都市」としてシーサイドももちが開発された。

シーサイドももちが未来を担う「実験都市」であり続けるためには・・・

本提案はシーサイドももちが常に最先端な「実験都市」であり続けるための「実験場」の提案である。

SITE



NEW Close to Work & Home

「働く」と「暮らす」の境界はどこにあるのか。私たちは、両者の間には $\neq 0$ の距離感があり、それを選択し気持ちの切り替えをしている。

デジタル化が進む現在において、私たちは場所・時間に縛られない自由を手にしつつある。デジタル空間を介することで「働く」と「暮らす」の距離感の多様な選択肢を作ることができ、ユーザー各自が自身に合う最適の距離感を選択することができるようになるのではないか。

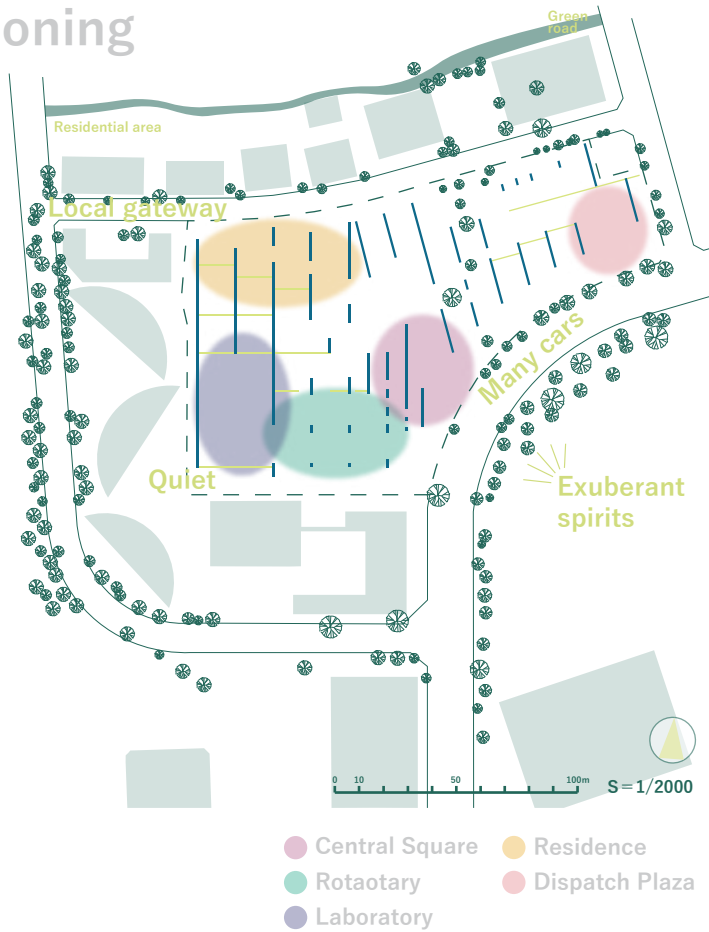
NEW TECHNICAL EXPERIENCES

デジタル空間上に構築された建築と実空間に構築された建築間でインタラクティブに情報のやり取りをする。実空間の活動で留めるのではなく、デジタル空間を介することで、この建築が世界とつながる起点となる。そして、AR によって建築内に情報が可視化される。

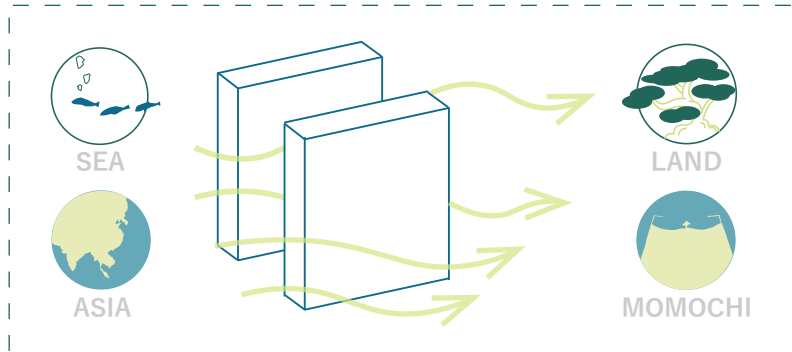


DESIGN PROCESS

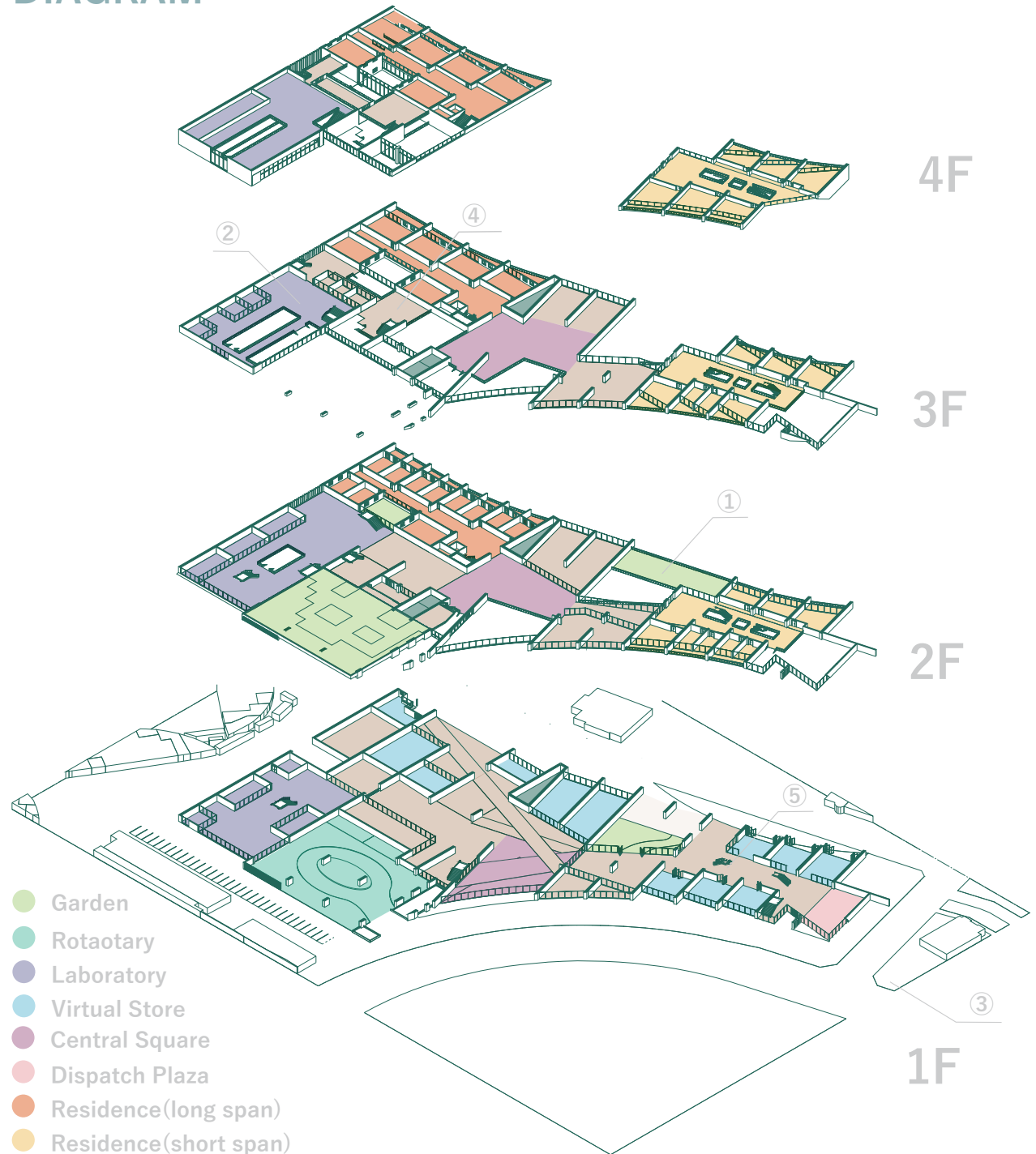
Zoning



Wall Morphology



DIAGRAM



PERSPECTIVE



①中庭の緑が空間を繋ぐ



②最先端技術が集約する研究所に太陽の光が降り注ぐ



③よかトピア通りに施設の賑わいと最新技術があふれ出し、シーサイドももち、そしてアジア全体に発展をもたらす



④研究所で働く人と住まう人の交流が生まれる



鳥瞰からの見え：リード壁により人を引き込み世界に導く



⑤新規事業者をサポートする店舗と住居が縦に連なる